

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（9月分）

留学先：マカオ大学

氏名：坂井穂花

9月は特に変わった出来事もなく、平凡な日々を送っていたので、とあまり書くことはありませんが、最近気づいた変化について書こうと思います。

私がマカオに来て、はじめの5ヶ月くらいは中国語すら使おうとせず、外食に行ったときなどはずっと英語でつき通していました。でも、5月になって期末テストがおわった頃、もともと取りたかった授業は全く取れずに今まで何を目標にしていたのか、これから半年間は何を目標に頑張りたいのかについて深く考えた結果、11月の中国語検定を一つの目標として中国語の習得がこれからの目標となりました。その中国語検定で勉強を終えてしまうのではなく、帰国して4年生になっても、中国語の授業を取り、今まで勉強したことを忘れないよう、そして将来的に使えるようになりたいと考えています。これに関して、今ではもう外食や買い物などでは極力英語は使わなくなり、中国語で話すのにすっかり慣れてきました。簡単な会話に限られますが。広東語とマンダリンの聞き分けはできるようになり、この前は広東語で話されても聞いて理解することができたので、すごく嬉しくなって勉強のモチベーションが上がりました。それでも、話すのが早すぎて、文で話されるとわからないことが多いので、その時はわかっているふりをして頷いたりしてしまうことが多いです。よく行くお店では、頼みたいメニュー名を覚え

て使うことも多いです。さらに、日本で中国語を習い始める前はあまり中国に対して良いイメージがなかったのですが、中国語を勉強して使っていくにつれて親近感がわいていき、マカオのお店の店員さんたちは不愛想な人がほとんどですが、たまに親密な人もいたのでその時はすごく嬉しくなって、マカオに来てよかったと思える瞬間でもあります。

留学を通して気づいた人間関係について、距離的に友達と離れると気づくことがたくさんありました。連絡をあまりとらなくても私を応援してくれる人、連絡を取るのが当たり前になって思いやりが無くなってしまふ人、連絡を取らなくなり疎遠になる人。長い期間離れることで友達を大きなふるいにかけているように感じました。ずっと会えていなくても応援してくれたり、連絡を取ってくれたり、悩んでいるときに話を聞いて人ももちろんいますが、そうでない人はその程度だなと思って、これからは大事に思ってくれる人とかかわりを大切にするとともに、留学仲間、悩み相談に乗ってくれた人にも大変感謝したいです。

あまりまとまりのない報告書になってしまいましたが、残り2か月と10日あまりをマカオで大切に過ごしていきたいと思います。